

令和２年度小松市立丸内中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導	<思いやる心の育成>	・入学当初と比較して特に１年生は落ち着いた学校生活をおくれている。休み時間の様子などを各学年を中心に丁寧に見れていることも要因の一つである。 ・新しい生活様式の指導をし，感染予防の意識は高まっている。 ・交通ルール，マナーの指導を何度か行った。登下校指導を行えていないので，定着度合いの確認はできていない。２学期中に下校指導を行い，今後の指導につなげていきたい。 ・他者とのコミュニケーションの中で認知の違いがある生徒が多いので，２学期の学活でソーシャルスキルトレーニングを導入していきたい。	・１年生は，落ち着いた学校生活を送れている生徒が増えているが，その反面，授業についていけない生徒も目立ってきている。要因については，ゲームへの依存等，生活リズムの乱れが考えられる。 ・登下校指導は行っているが，安全面の確保のために継続的な指導が不可欠である。今後も，学級や部活動の終礼時などでも指導をしていきたい。 ・学級会の積極的な開催を促し，生徒主体で運営をする経験ができた。 ・大きな事故やトラブル，重大ないじめはなかった。今後もアンテナを高くして見守っていきたい。
	①豊かな人間性，よりよい人間関係を築く能力を育成する。 ②互いを認め合える集団を育成する。安心して発言できる親和的学級づくりを目指す。 ③安全安心な登下校のための交通ルール，マナーの定着。特に，自転車通学における一時停止徹底の指導に重点を置く。		
道徳教育	<自主・自律の精神，思いやりと感謝の心を育む>	「丸中トーク」に関して，１学期末に行った道徳アンケートから ・『友達と考えを出し合ったりして，新しい見方や考え方に気付くことは大切』と感じている生徒は９６％であり，『友達と考えを出し合ったりして，自分の考えを広げることは大切』と感じている生徒は９７％であった。このことから，様々な考え方に触れたり，受け止めたりすることの価値を生徒一人一人が見出していると考えられる。 ・ただ，それが実生活の中に反映されたり，行動に移したりすることにはつながっていないようだ。その理由として，同アンケートの『地域や社会で起こっている問題や出来事に，関心をもつようにしている』生徒は８６％，『地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある』生徒は６７％であった。 ・今後は，自分の中にある心をどのようにして行動に移していくのかについて，扱うテーマを自分事として捉えられるよう取り組んでいきたい。	「丸中トーク」に関して，２学期末に行った道徳アンケートから ・『友達と考えを出し合ったりして，新しい見方や考え方に気付くことは大切』と感じている生徒は９５％であり，『友達と考えを出し合ったりして，自分の考えを広げることは大切』と感じている生徒は９６％であった。１学期に引き続き，多くの生徒は様々な考え方に触れたり受け止めたりすることの価値を見出しているが，今後さらに想像力（創造力）が求められる社会に生きていく生徒たちにとって，その重要さは計り知れない。そのため，この価値を全員が見出したり，見出したものを高めていったりするための取り組みができるとよい。 ・実生活へのつながりについては，『地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある』生徒は７３％であった。若干の上昇は見られるものの，社会と自分とのつながりをあまり感じられていない部分もあるようだ。 ・さらに，『わかっていてもできないという自分の心の弱さを感じることもある』生徒は９７％であった。 行動に移すという点においては，自分本位ではなく，周囲への意識を高めるとともに，自らの思いを実行するための経験や自信を持てる生徒を育てたい。それが自主・自律にもつながるだろう。
	・昨年度の取り組みを土台とし，実践力のさらなる向上を目指す。 ・考え，自己をふり返ることを通して，自らを律する精神を高める。 →授業内・学期末に行うふり返りの充実 ・「丸中トーク」を通して，多面的・多角的な捉え方や考え方を体感しながら，自分とは異なる捉え方や考え方を受け止める心を育てる。 →「丸中トーク」の効果的な活用		
キャリア教育	<系統的・計画的なキャリア教育の推進>	・新型コロナウイルスの影響で学級活動、総合的な学習の時間が確保されず、取り組みがほとんどできていない。	・１年生では，職業調べ，職業に関するDVDの視聴，地域人材の招聘，進路適性検査を行い，将来の進路に向けての関心を高めることができた。 ・２年生では，高校調べや企業訪問，立志のつどい等を通して，働くことの意義や目的の理解を深めることができた。 ・３年生では，体験入学参加の代替として，高校説明会や紹介DVDの視聴等により，将来を見通した進路選択の一助とした。
	・学級活動（進路指導）と総合的な学習の時間を中核として，年間計画に沿って実施する。 ・働くことの意義、体験的活動などのために、地域や先輩の人材を招聘し効果的に活用する。		
人材育成	若手教員の指導力向上	・業務について，初任教員の配置を工夫している。（副担任，校務分掌等） ・教科部会を通して，授業づくりについての共通理解を図っている。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等もあり，校内研修が十分に推進されていない。	・日常的な教育活動の中に，若手教員（初任者）の人材育成に関する視点を盛り込み取り組むことができた。 ・管理職等による若手校内研修会については，現状を把握し，内容を工夫することで，教員としてのスキルアップに努めることができた。 ・若手教員同士による研修会を十分に推進することができなかった。
	学校の日常的な教育活動を基盤として，若手教員の指導力向上を図っていく。 ・校内研修の質的向上及び効果的な実施 ・学校全体でＯＪＴに取り組める雰囲気づくり ・日常的な研修体制の確立 ・校務分掌における若手教員の配置の工夫		

学校関係者評価	【授業改革・ICTの推進】 ・生徒一人一台タブレット活用に関しては，大変さもあるが，ぜひ積極的に有効に活用していただきたい。
	【働き方改革】 ・全体的な業務が減っていないのに時間が減っているのは，逆に教員の負担が増えているのではないのか。それらの要因をしっかりと把握し，改善を進めていきたい欲しい。 ・教職員が働き方改革を意識して業務に取り組むようになったのは，良いと思う。 ・子どもたちの育成にかかわる部分は削減するものではない。 【人材育成】 ・最近の若者は昔と比べ感覚が変わってきていると思う。広い視野を養うためにも，地域とのつながりの中での交流は，教師としての資質を育てる上で大切である。